（様式１）

県立藤代紫水高等学校【総合的な探究の時間の全体計画】（令和７年度）

総合的な探究の時間の第１の目標

探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
① 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念形成し、探究の意義や価値を理解するようにする。
② 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
③ 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

学校の教育目標

①生徒一人一人を大切にし、進路実現を支援することで、様々な社会で活躍・貢献できる力を育む。
②「WE LOVE SHISUI」をモットーにし、自ら規範意識を高め、安心・安全で誇れる学校作りを目指す。
③生徒の基礎学力向上に努め、授業の質的向上をはかり、討論や発表を通じて理解の質を高める工夫に取り組む。
④「部活動の紫水」として、各部生徒の総合的なレベルアップに常に心がける。
⑤学校公開を積極的に実施するなど、本校の情報発信を推進し、「紫水生の今」を共有しながら、地域・家庭・関係諸機関と連携して愛される学校作りに邁進する。

各学校で定める目標と育成する資質・能力

①各教科・科目における見方や考え方を総合的・横断的に活用し、実社会で働く資質・能力を養う。
②様々な角度から複雑な社会的事象を捉える視点や考え方を身につけることで、自己のあり方や生き方と関連付けて、自分なりの「問い」を生み出す力を培う。
③学びに向かう力として、個人はもちろん、相互に関わることで、成長することを目的とし、帰属社会への貢献など人間性の向上をはかる。

総合的な探究の時間の学習評価

①探究活動を通して必要な情報を収集・分析することができる。
②社会事象・学術分野における諸課題から探究テーマを選定し、自ら問いを発見することができる。
③ロールプレイやディベートなど様々な探究的技法により、他者との連携により情報を共有し問題解決を図ることができる。
④正しい手法により、客観的な根拠を示した上で、自らの主張を組み立てることで、文章構成や発表、情報発信を行うことができる。

生徒の実態

① 様々な学習活動を意欲的に取り組めずがはかれない生徒が存在する。
② 教科書の中でしか学ぼうとせず、社会事象の中における学習に喜びを見いだせない生徒が存在する。
③ 過去の失敗が契機となり、人とのつながりの中で、自分や他者の良さが見いだせない生徒が存在する。
④ 挨拶や部活動に積極的に取り組み、学校活性化に貢献する生徒が多数いる。

生徒の発達をどのように支援するか
○配慮を必要とする生徒への指導

①探究活動に主体的に取り組めない又は作業の遅れが目立つ生徒には、各班の協力を要請することや教員の関わりを増やすよう心がける。
②探究活動の基本である聞く、書く、話す、発表する、の各要素は、授業や学校行事など様々な場面指導とのつながりを重視する。

目指す生徒の姿

① 探究活動を通して、学ぶことの本質的な意義を見いだし、主体的に学習活動に取り組む。
② 教科や教科書の枠や、既存の常識にとらわれない学習課題の選定により、常に学ぶことの重要性を感じる。
③ 探究活動のチームメイト主体の活動を通して、相互扶助に基づく理解を図り、協同の持つ可能性を知る。
④ 進路における自己実現や部活動における技術向上も、主体的な「問い」から始まることを意識することで、社会に対する奉仕や貢献の精神を培う。

各学校が定める内容（目標を実現するにふさわしい探究課題、探究課題を通して育成を目指す具体的な資質・能力

第１学年（内容・目標）
(1) 生徒の興味・関心に従う６テーマ（①国際理解②スポーツ健康③生活福祉④地域行政⑤経済・経営学⑥自然科学）から探究課題を見いだし、班員相互に関わりを持ちながら、課題解決を図る。
(2)「道徳」では、校長講話や文化祭での取り組みなどを通して自己のあり方や生き方と関連付けて「問い」をたて、豊かな人間性を育む。

第２学年（内容・目標）
(1) 自らの進路とつながる６テーマ（大学文系①・②、大学理系、就職、公務員、看護・医療）から更なる探究課題を見いだし、班員相互に関わりを持ちながら、課題解決を図る。
(2) 修学旅行や文化祭での取り組みなどを通して自己のあり方や生き方と関連付けて「問い」をたて、豊かな人間性を育む。

上記の２カ年の総合的な探究の時間の取り組みを通して、社会に生きて働く知識・技能を通して、思考力・判断力・表現力を培い、学びに向かう力や人間性を育む。

学習活動、指導方法等

（学習活動）
①学校行事や進路行事で１０時間程度設定する。
②１年間１テーマとする。第１学年は１学期 HR 単位での活動を中心に行い、２学期以降は、外部講師を招いてテーマ別に探究活動を行う。第２学年は、進路別に探究テーマを再設定する。修学旅行などで企画立案型の探究活動も実施する。
③地域奉仕やインタビュー、インターンシップ、フィールドワーク活動など端的に盛り込む。
④11 月中旬の中間まとめ、２月のポスターセッションを節目とするなど単元展開を工夫する。なお、最終プレゼンテーション発表は第３学年４月に実施する。

（指導方法）
①生徒の課題を連続的に発展させて、深化させる。
②担当者や担任は、ポートフォリオにより、個に応じた指導の工夫を徹底し、対話を中心にした個に応じた個別支援体制を構築する。

指導体制（環境整備、家庭・地域との連携）

①探究委員会や教育課程委員会を中心とする学年・教科の全教職員をつなぐ校内連携体制の確立（月に１回開催）を推進する。
②外部講師との年間指導計画を中心にした連携を密にする指導体制の確立を図る。
③探究活動を充実するための各教科における主体的・対話的で深い学びを通した授業実践の研究を学校全体で取り組む。
④探究活動を効果的に行うための施設や教具の充実（予算配分、空き教室を探究メディアセンターとして情報収集基地とするなど、ICT 環境整備を図る。